



鬼の女王のおもちや

になった話  
(4頁フルカラー)



鬼の国に迷い込んでから、しばらく経った。  
 僕がここで唯一の人間であるため、いつも注目されているが...



あ！尊様だ！！

.....



今日も人間の子と外で遊んでいるのですか？

おはようございます!!  
尊様!!



見て見て!!  
尊様の話、めっちゃ真剣に聞いているやんか  
まじめな子やね

僕は今...  
鬼の女王のおもちゃになっ  
ているようだ。



あ  
あ  
あ



あ  
あ  
あ



はい♥おしまい

ほっほん



ふんふん

尊様はよく僕を人が多い場所に連れて行って、他の鬼に気付かれないように、耳舐めをする。



今日もわらわの舌で射精したいかしら？

もしかして…

あらあら、どうして不満そうなお顔してるんじゃないの？



お…お願いします…尊様の舌でイカせてください…

いつも通り頼んでみて、そうしないと、してあげないわよ

私の長くてしなやかな舌を見て、イキたいと思うじゃろ？

あら…もうこんな大きくなったね♥

んんんん

んんんん

いい子じゃ…  
ご褒美を  
あげましょう♡

はむ

ビク

ビク

ビク

か

来た！  
尊様の舌が、  
僕の耳に入れられ、  
唾液を分泌しながら  
脳を刺激する。

あ

ビク

あ

あ

あ

あ

鬼の舌、気持ち良すぎる…  
体が勝手にビクビクし始めた…  
止まらない…!!

気持ちいい…  
頭がとろけちゃうくらいだ…

あ

あ



イケ

びびり

どろろ



僕の耳を含み、  
回で耳全体をマッサージする。  
これは終盤の合図だ。

ちゅ

ちゅ



そして...

ちゅほ



城に戻って続きを  
やりましょう♡

ちゅ♡

お父さんお母さん...  
ごめんなさい...  
僕は一生、人間の世界に  
戻れないようだ...



たくさんだしてくれて  
妾嬉しいのじゃ♡

普段優しい尊様に、  
命令口調で囁かれ  
僕の興奮度が大きく高まって  
射精量も多くなるみたい。

ちゅ♡









